



デジタルハーツホールディングス (3676)

安定と成長のバランスを追求
26 年 3 月期 4Q 決算アップデート

- **全方位の再構築** – 26 年 3 月期は、特損の影響を受けたが、本業は概ね計画通りで着地した。DH グループの国内デバッグ事業が *Nintendo Switch 2* の市場投入に支えられて好調に推移し、海外展開の加速も売上高に寄与した。一方、AGEST グループは、戦略的な事業縮小や一部の低採算 IT サービス案件が下押し要因となった。27 年 3 月期には、DH グループが *Nintendo Switch 2* 関連の持続的な追い風、海外展開の加速、そして前期に買収した *HUWIZ SOLUTIONS* の通期連結で、再び拡大基調を見込む。さらに全社的に AI 技術の積極的な模索 (*HumanOps OS*、*TFACT*、*SOC*) を進めている。AGEST グループのスピノフ上場方針の取り下げを受け、株主利益の最大化に向け、新たに**累進配当政策**を導入するなど、株主還元姿勢を一段と強化している。

安定業績の見通し

- **27 年 3 月期弊社予想は会社計画をやや上回る見込み** – 当社の 27 年 3 月期の業績予想は、会社側のガイダンスをやや上回り、連結売上高 412.7 億円(会社計画:410.8 億円)、営業利益 28.0 億円(会社計画:27.3 億円)を予測している。この見通しは、主に以下の 2 点を反映: 1) 高成長を続ける海外展開を原動力とした DH グループの持続的な事業モメンタム 2) 戦略的な事業縮小や不採算のレガシー IT サービス案件に伴う一連の下押し圧力が正常化に向かうことによる、AGEST グループの構造的な安定化。また、当期純利益については、26 年 3 月期に計上された特別損失の反動も影響があり、前期比+57.6%増と急増する見通しである
- **バリュエーション** – 修正後の当社予想に基づく、27 年 3 月期の株価は PER9.1 倍 (EPS は前期比 57.6%増)、EV/EBITDA 倍率は 4.5 倍となる。中核事業の収益モメンタムが強まり、AGEST グループの業績も改善していることを考慮すると、業績回復の見通しはなお株価に十分織り込まれていないと当社では見ている。

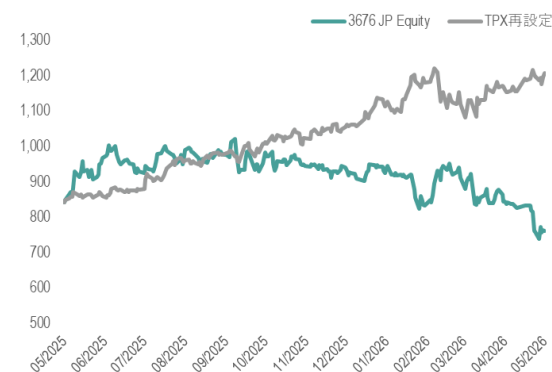
年度末	3/25	3/26	3/27E
売上高(10億円)	39.75	38.93	41.27
営業利益(10億円)	2.43	2.63	2.80
純利益(10億円)	0.63	1.18	1.86
EPS(円)	28.25	53.00	83.51
1株当たり配当(円)	23.00	25.00	25.00
売上高伸び率(%)	+2.5	-2.1	+6.0
営業利益成長率(%)	+19.1	+8.1	+6.6
純利益成長率(%)	+255.8	+87.7	+57.6
EPS 成長率(%)	+255.6	+87.6	+57.6
PER(倍)	26.9	14.4	9.1
EV/EBITDA(倍)	5.0	4.8	4.5
EV/売上高(倍)	0.4	0.4	0.4
PBR(倍)	2.0	1.9	1.6
ROE(%)	7.2	12.7	17.8
ROCE(%)	25.6	25.4	23.2
FCF 利回り(%)	13.1	13.4	15.9
配当利回り(%)	3.0	3.3	3.3

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

2026 年 5 月 22 日

株価: 761 円

時価総額: 182 億円



出所: ブルームバーク

リターン

	YTD	1M	3M	12M
絶対(%)	-16.3	-9.8	-8.6	-9.7
相対(%)	-26.7	-13.3	-10.6	-37.0

セクター

情報技術サービス
IT サービス(GICS)

株式データ

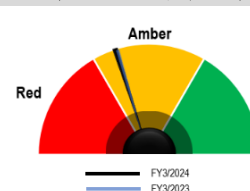
株価(円)	761
時価総額(10億円)	18.2
時価総額(100万ドル)	114.3
52 週レンジ(円)	731-1,066
発行済株式数(100万株)	23.9
日次平均出来高(100万ドル)	0.6
浮動株(%)	47.4
外国人株式保有比率(%)	14.7
コード	3676
取引所	Tokyo Prime
純有利子負債/自己資本(倍)	N/A
FFO レバレッジ(倍)	N/A
買い ホールド 売り	1 0 0

出所: ブルームバーク

事業概要

デジタルハーツ HD は、エンターテインメント企業向けゲームデバッグサービス、エンタープライズ企業向け QA サービス、セキュリティサービスなどを提供する。

アストリス・サステナビリティ ESG レーティング



参考レーティング

MSCI	N/A
Sustainalytics	N/A
Refinitiv	N/A
S&P Global	1.0
Bloomberg	1.28
CDP	N/A

次のイベント

2026 年 8 月: 2027 年 3 月期第 1 四半期決算発表

Tel: +81 3 6868 8797

Email: CorporateResearch@astrisadvisory.com

本レポートは同社から委託され、支払いを受けて作成されている。

直近の業績

26 年 3 月期第 1-4 四半期決算

本業はガイダンスをほぼ達成できた通期決算

主要財務データ

(10億円)	25 年 3 月期 Q1~4	26 年 3 月期 Q1~4	前年比 (%)	26 年 3 月期 通期計画	通期計画に 対する進 捗率(%)	27 年 3 月期 通期計画	前年比 (%)
売上高	39.75	38.93	-2.1	39.75	97.9	41.08	+5.5
実質売上高*	36.65	38.93	+6.2	39.75			
売上原価	29.61	28.93	-2.3	-			
売上総利益	10.14	10.00	-1.4	-			
売上総利益率(%)	25.5	25.7					
販管費	7.71	7.37	-4.3	-			
営業利益(損失)	2.43	2.63	+8.1	2.64	99.5	2.73	+4.0
実質営業利益*	2.36	2.63	+11.3	2.64			
営業利益率(%)	6.1	6.7		6.6		6.6	
経常利益	2.28	2.58	+13.4	2.64	97.8	2.73	+5.7
親会社株主に帰属す る当期純利益	0.63	1.18	+87.7	1.66	71.1	1.85	+56.6

出所: 会社データ

*注: 実質売上高および実質営業利益は、子会社売却の影響を除外して算出

DH グループでマージンが拡大

事業セグメント別データ(消去前)

(10億円)	25 年 3 月期 Q1~4	25 年 3 月期 Q1~4 (実質ベース)	26 年 3 月期 Q1~4	前年比 (%)	前年比(%) (実質ベース)	27 年 3 月期 通期計画	前年比 (%)
売上高							
DH グループ	23.91	20.80	23.13	-3.2	+11.2	25.38	+9.7
国内デバッグ	13.68	13.68	15.12	+10.5	+10.5		
グローバル及びそ の他*	10.23	7.12	8.01	-21.6	+12.5		
AGEST グループ	16.16	16.16	15.99	-1.0	-1.0	15.70	-1.8
QA ソリューション	13.93	13.93	14.08	+1.1	+1.1		
IT サービス及びそ の他	2.23	2.23	1.91	-14.3	-14.3		
CVC	-	-	-			-	
セグメント利益(損 失)							
DH グループ	1.94	1.87	2.25	+15.7	+20.0	2.27	+1.1
AGEST グループ	0.49	0.49	0.38	-22.1	-22.1	0.53	+39.3
CVC	-	-	-		-	-0.07	
セグメント利益率(%)							
DH グループ	8.1	9.0	9.7			8.9	
AGEST グループ	3.0	3.0	2.4			3.4	

出所: 会社データ

*注: 2025 年 3 月期第 1-3 四半期には、2024 年 12 月に売却したアイデンティティの案件数を含む

主なハイライト

26 年 3 月期通期業績は、特損の影響で純利益はガイダンスを未達だったが、本業は概ね会社計画通りに着地し、実質的な売上・利益ともに強い成長軌道を維持した。*Nintendo Switch 2* に伴う良好な市場の追い風、海外展開の加速、および HUWIZ SOLUTIONS INC. の買収が牽引し、DH グループは実質ベースで 2 桁の売上高成長を達成した。一方、AGEST グループは、特定の戦略的な事業縮小や低採算の IT サービス案件の影響が下押し要因となった。

*注: 実質売上高および実質営業利益は、子会社売却の影響を除外して算出

DH グループ

コンソールゲーム市場は、*Nintendo Switch 2* の市場投入を巡る旺盛な需要の恩恵を大きく受けた。国内のゲームデバッグ市場で圧倒的なシェアを有する同社は、**国内デバッグ事業**において前年同期比+10.5%となる 151.2 億円の売上高を記録した。第 4 四半期は低採算案件の影響で一部マージンが圧縮されたものの、同部門の通期売上総利益率は前年並みの 27.4%と堅調な水準を維持した。

グローバル及びその他部門は、前期に実施した子会社(アイデンティティ)の売却影響を除いたベースで前年同期比で 12.5%増と、さらに高い伸びを達成した。この業績は、ゲーム特化型の自社開発 AI 翻訳エンジン「ella(エラ)」の本格展開に加え、*Nintendo Switch 2* の新規タイトル向けゲーム開発支援需要の高まりが主導した。海外フットプリントの拡大を加速させるため、同社はカナダの HUWIZ SOLUTIONS INC. 連結子会社化しており、26 年 3 月期第 4 四半期から業績貢献が始まっている。

これら高採算の国内事業および拡大する海外事業が原動力となり、DH グループのセグメント利益は前年同期比で、実質ベースで+20.0%の 22.5 億円へと増加し、セグメント利益率は 9.7%へと拡大した。

*注: 実質売上高および実質営業利益は、子会社売却の影響を除外して算出

AGEST グループ

当セグメントは外部環境の変化と、それに伴う事業戦略の整理の影響を受け、通期売上高は前年同期比で 1.0%減の 159.9 億円、セグメント利益は前年同期比で 22.1%減の 3.8 億円となり、セグメント利益率は 2.4%にとどまった。

当セグメントの中核の **QA ソリューション事業**は YoY +1.1%増の 140.8 億円へと成長している。国内のソフトウェアテスト案件が堅調な拡大トレンドを維持したことで、レガシーな受託開発の縮小を補完したほか、海外事業においては構造改革の成果や前期の *MK Partners, Inc.* 売却影響を除くと、増収および大幅な増益を達成した。また、次期以降のサービス成長加速に向け、第 4 四半期にマーケティングやプロモーションへの先行投資を積極的に実施した。

一方、**IT サービス及びその他**は、低採算事業の計画的な縮小やセキュリティ監視ツールベンダーの値上げに伴う一時的なコスト負担が響き、売上高は YoY 14.3%減の 19.1 億円へと落ち込んだ。

AI 時代に向けた変革

DH グループにおいて、ゲームに精通した人材の「感性」や「ユーザー目線」を活かしたエンタメ品質保証(デバッグ、翻訳・LQA)を提供しており、これらは AI による代替が極めて困難であるため、AI の台頭によるマイナスの影響が限定的と推測。同社はこの強みを維持しつつ、独自開発の AI 協働型オペレーションプラットフォーム「HumanOps OS」の導入やゲーム特化型 AI 翻訳エンジン「ella」の本格展開を進めている。これらはサービスそのものの AI 化ではなく、テスターの業務効率化や生産性を大幅に向上させるための AI 活用であり、これにより受注キャパシティの拡大に成功している。足元では、先般のカナダ HUWIZ SOLUTIONS 社の買収とも相まって、Nintendo Switch 2 といった大型ハードウェアサイクル周辺で拡大する、成長性の高いグローバル LQA およびデバッグ需要の確実な取り込みに繋げている。

AGEST グループにおいては、従来の労働集約型(エンジニアの稼働時間依存型)のビジネスモデルから、拡張性が高く、高マージンな「AI 従量課金型」または「SaaS スtock型」モデルへの転換を図っている。この進化を牽引するのが、自社開発の AI 駆動型テストツール「TFACT」と、ソフトウェアサプライチェーンの脆弱性リスクを可視化する「SBOM Archi」である。売上成長をエンジニアの増員から切り離すことで、AGEST はより強固で非線型的な収益基盤を構築すると同時に、足元で急増する AI コンサルティング需要に対応すべく、既存エンジニアのリスキリングを並行して推進している。

次世代の技術競争力の確保と長期的な ROE 向上を実現するため、同社は専門の CVC (コーポレートベンチャーキャピタル)部門を新設する。本イニシアチブでは、本業の延長にない革新的な技術・アイデア・ビジネスモデルのアーリーからミドルステージのスタートアップへの戦略的投資にフォーカスする。外部のイノベーションへ直接資本を投下することにより、技術ソーシングの加速や戦略的提携の構築を図り、DH・AGEST 両方の運営エコシステムへ高付加価値なソフトウェア機能を注入していく構えでもある。

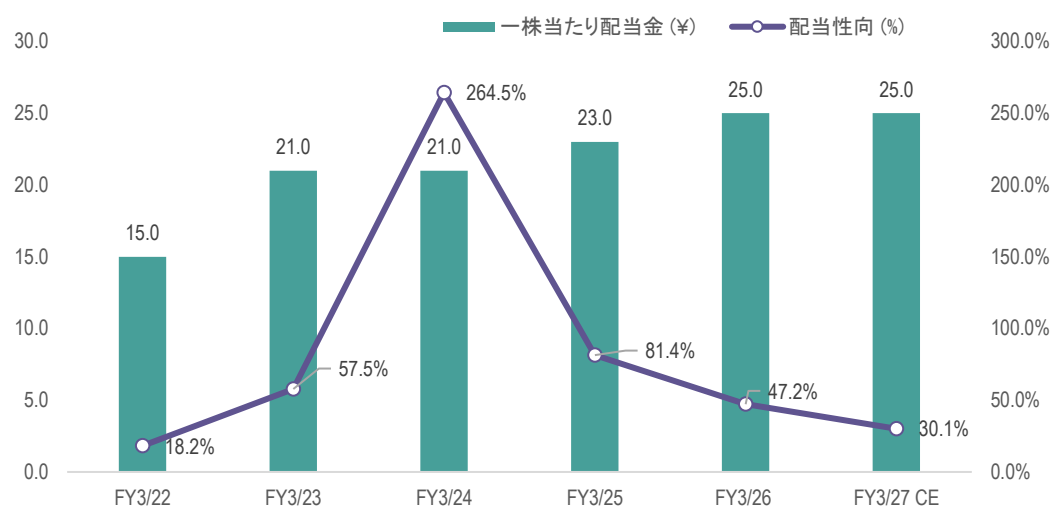
AGEST グループのスピノフ上場方針の取り下げ

2026 年 3 月 2 日、デジタルハーツホールディングスは、AGEST グループのスピノフ上場方針の取り下げを発表した。

弊社は、今回の AGEST グループのスピノフ上場方針の取り下げを、中長期的な株主価値の最大化を目的とした戦略的転換としてポジティブに評価する。米 Anthropic(アンソロピック)社による新たな AI ツールのローンチを契機に、市場では SaaS および IT サービスセクター関連株が大きく売られた。この事業環境下でスピノフ上場を強行することは、AGEST の本源的価値の顕在化に繋がらないばかりか、企業価値を永久に毀損し、株主利益を損なうリスクがあったと言わざるを得ず、会社側の判断は妥当と見ている。

スピノフに代わる施策として、デジタルハーツホールディングスは株主還元の強化を決定した。具体的には、累進配当政策を導入したほか、2026 年 3 月期の 1 株当たり年間配当金を期初予想から 2.0 円増額し、25.0 円へと引き上げた。さらに、500 株以上を保有する株主を対象に 10,000 円分の QUO カードを贈呈する株主優待制度の新設も打ち出しており、国内個人投資家に対する投資妙味を大幅に向上させている。

配当還元



出所: 会社データ

当社の業績予想と主な前提条件

足元の事業モメンタムや企業取材から得た知見、会社側のガイダンスを踏まえ、27 年 3 月期の業績予想を最終確定した。

アストリス・アドバイザリーの業績予想

(10 億円)	FY3/26 実績	FY3/27 ガイダンス	前年比(%)	FY3/27 当社予想
売上高	38.93	41.08	+5.5	41.27
DH グループ	23.13	25.38	+9.7	25.42
AGEST グループ	15.99	15.70	-1.8	15.85
調整分	-0.20	-	-	-
営業利益	2.63	2.73	+4.0	2.80
DH グループ	2.25	2.27	+1.1	2.30
AGEST グループ	0.38	0.53	+39.3	0.49
営業利益率(%)	6.7	6.6		6.8
経常利益	2.58	2.73	+5.7	2.70
親会社株主に帰属する当期利益	1.18	1.85	+56.6	1.86
EBITDA	3.56			3.83
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	2.44			2.90

出所: 会社データ

注: FCF 換算は FCF/税引前利益。数値は小数点第 2 位を四捨五入

当社予想の主な前提は次のとおりである。

- **売上高成長** – DH グループについては、大型ハードウェアサイクルの到来を控えた国内デバッグ需要の高い視認性に加え、業績への貢献度が非常に高い。HUWIZ SOLUTIONS の通期連結化の恩恵を受ける「グローバル及びその他」部門の見通しを上方修正したことが牽引する。AGEST グループにおいては、中核の QA ソリューション事業が堅調なモメンタムを維持すること、また、レガシーな低採算 IT サービス案件の戦略的縮小に伴う一連の下押し圧力が解消することから、売上高は安定化に向かう見込みである。
- **収益性** – 営業利益の成長は安定的に推移すると予想される。これは、強固なキャッシュ創出力を持つ国内デバッグ事業の底堅さと、戦略的構造改革の完了に伴う AGEST グループの収益性の反転に裏付けられている。さらに、グループ平均を大幅に上回る高い粗利率を誇る HUWIZ SOLUTIONS の売上構成比が上昇することで、連結全体での構造的な収益ミックスの改善が促される見通しである。
- **フリー・キャッシュ・フロー創出** – 堅調なトップライン成長と構造的に安定した営業利益率を原動力に、同社のキャッシュ創出力は向上する見込みである。同社固有のアセットライトなビジネスモデルと限定的な設備投資負担を踏まえ、フリー・キャッシュ・フローは当期純利益の拡大に比例して成長すると予測する。これにより、新設された CVC(コーポレートベンチャーキャピタル)部門による投資活動と、さらなる株主還元の強化の双方に向けた十分な手元資金が確保されることになる。

JGAAP に基づく要約財務諸表

損益計算書 (10億円)	FY 3/25	FY 3/26	FY 3/27E
売上高	39.75	38.93	41.27
売上原価	29.61	28.93	30.75
売上総利益	10.14	10.00	10.52
売上総利益率(%)	25.50	25.69	25.50
営業利益	2.43	2.63	2.80
営業利益率(%)	6.11	6.75	6.78
営業外収益	0.06	0.12	0.09
営業外費用	(0.21)	(0.17)	(0.19)
経常利益	2.28	2.58	2.70
特別利益	0.63	-	-
特別損失	(1.26)	(0.73)	-
税引前当期純利益	1.65	1.86	2.70
法人税等	(0.98)	(0.64)	(0.81)
実効税率(%)	42.80	24.93	29.95
当期純利益	0.67	1.21	1.89
非支配株主に帰属する当期利益	0.04	0.03	0.03
親会社株主に帰属する当期利益	0.63	1.18	1.86
売上高前年比伸び率(%)	+2.5	-2.1	+6.0
営業利益前年比伸び率(%)	+19.1	+8.1	+6.6
税引前当期純利益前年比伸び率(%)	+92.5	+12.8	+45.5
当期純利益前年比伸び率(%)	+255.8	+87.7	+57.6

貸借対照表 (10億円)	FY 3/25	FY 3/26	FY 3/27E
現金・預金	7.59	7.13	8.80
棚卸資産	0.07	0.07	0.07
売掛債権	5.50	5.34	5.66
その他流動資産	0.91	1.49	1.58
流動資産	14.07	14.03	16.12
有形固定資産	1.48	1.62	1.73
のれん	1.04	1.79	1.79
無形固定資産	0.71	0.98	0.83
投資有価証券	1.34	1.34	1.34
その他固定資産	1.32	1.77	1.77
固定資産	5.88	7.50	7.46
資産合計	19.95	21.53	23.58
短期借入金	5.21	5.67	5.67
買掛債務	4.29	4.42	4.69
その他流動負債	0.97	1.10	1.17
流動負債	10.47	11.19	11.53
長期借入金	0.04	0.18	0.18
その他固定負債	0.18	0.20	0.20
固定負債	0.22	0.38	0.38
負債合計	10.69	11.57	11.92
株主資本、その他の包括利益 累計額	8.95	9.63	11.34
新株予約権	-	-	-
非支配株主持分	0.31	0.33	0.32
純資産	9.26	9.96	11.66
負債・純資産合計	19.95	21.53	23.58

キャッシュフロー計算書 (10億円)	FY 3/25	FY 3/26	FY 3/27E
税引前当期純利益	1.65	1.86	2.70
減価償却費	1.03	0.94	1.03
運転資金の増減	0.31	0.41	(0.05)
その他の非現金項目	0.80	0.83	0.81
法人税等支払額	(0.66)	(0.80)	(0.81)
営業活動によるキャッシュフロー	3.12	3.22	3.68
設備投資	(0.74)	(0.78)	(0.78)
投資有価証券	1.43	(2.02)	-
その他の投資活動によるキャッシュフロー	(0.70)	(0.93)	(0.81)
投資活動によるキャッシュフロー	(0.01)	(3.72)	(1.60)
配当金支払額	(0.47)	(0.53)	(0.56)
借入金および社債発行による収入(返済・償還による支出)	(1.91)	0.45	-
自己株式の取得による支出	-	-	-
その他	(0.18)	(0.01)	(0.01)
財務活動によるキャッシュフロー	(2.56)	(0.09)	(0.57)
為替影響	0.18	0.13	0.15
ネットキャッシュフロー	0.74	(0.46)	1.67
フリーキャッシュフロー(FCF)	2.38	2.44	2.90
EBITDA	3.46	3.56	3.83
EBITDA 利益率(%)	8.7	9.2	9.3
FCF マージン(%)	6.0	6.3	7.0
FCF コンバージョン(%)	144.8	131.7	107.2
設備投資/売上高(%)	1.9	2.0	1.9
設備投資/減価償却(%)	71.7	83.3	76.2
営業 CF マージン(%)	7.8	8.3	8.9

主要指標	FY 3/25	FY 3/26	FY 3/27E
収益性			
売上総利益率(%)	25.5	25.7	25.5
営業利益率(%)	6.1	6.7	6.8
当期純利益率(%)	1.6	3.0	4.5
ROA(%)	3.1	5.7	8.3
ROE(%)	7.2	12.7	17.8
ROCE(%)	25.6	25.4	23.2
ROIC(%)	9.3	13.3	12.0
流動性			
流動比率(倍)	1.3	1.3	1.4
当座比率(倍)	1.3	1.2	1.4
レバレッジ			
D/E レシオ(倍)	0.6	0.6	0.5
ネット D/E レシオ(倍)	net cash	net cash	net cash
自己資本比率(倍)	0.4	0.4	0.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	N/A	N/A	N/A
ネットデット/EBITDA (倍)	N/A	N/A	N/A
バリュエーション			
EPS(公表値)(円)	28.2	53.0	83.5
PER(倍)	26.9	14.4	9.1
希薄化後 PER(倍)	27.0	14.4	9.1
DPS (円)	23.0	25.0	25.0
配当性向(%)	81.4	47.2	29.9
配当利回り(%)	3.0	3.3	3.3
FCF 利回り(%)	13.1	13.4	15.9
希薄化後 FCF 利回り(%)	13.1	13.4	15.9
PBR(倍)	2.0	1.9	1.6
EV/売上高倍率(倍)	0.4	0.4	0.4
EV/EBITDA 倍率(倍)	5.0	4.8	4.5
EV/EBIT 倍率(倍)	7.1	6.5	6.1
EV/FCF 倍率(倍)	7.2	7.0	5.9

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザー(予想)



免責事項

本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が作成したものです。本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が信頼できると考える公開情報源から入手した情報に基づいていますが、独自検証は行っていない、その正確性や完全性について保証、表明、保証をするものではありません。本レポートは、当該企業について述言及すべき全事項を記載したのではなく、また、記載を試みるものでもありません。ここに記載された意見は、本レポート作成時点におけるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社の判断を反映したものであり、予告なく変更される場合があります。本レポートに記載されている将来の見通しに関する情報または記述には、仮定、今後の業績予測、未確定な金額見積もりなどに基づく情報が含まれているため、既知および未知のリスク、不確実性および、このテーマに関する実際の結果、業績または成果が現在の予想とは大きく異なる可能性をもたらすその他要因が含まれています。

本レポートは概説として作成されたものであり、特定の金融商品または戦略を個人的に推奨するものではなく、また個人的な投資アドバイスを構成するものでもありません。

アナリストは、(i) 本レポートで表明する見解は、本レポートの対象である企業および証券に関する当該リサーチアナリストの個人的見解を正確に反映していること、(ii) 当該リサーチアナリストの報酬のいかなる部分も、直接的にも間接的にも当該リサーチアナリストが本レポートで述べた見解に過去、現在、未来を通して関連しないことをここに証明します。

本レポートは、日本法に基づき設立され、日本の金融庁の監督下にあるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社により作成されました。現地当局による規制範囲に関する詳細をご要望の場合は、弊社から入手可能です。

利益相反

本レポートは、当該企業が委託して費用を負担したものであり、MiFID II で定義される許容可能な軽微な非金銭的利益に該当すると判断されるものです。

読者は、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が、現在、もしくは今後 3 ヶ月以内およびその後、当該企業に対して IR/コーポレート・アドバイザリーなどのサービスを提供する、または提供することを求める可能性があることを前提とする必要があります。

記載金融証券への投資: アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、取締役、役員、従業員およびサービスプロバイダーの個人的な取引について制限的な方針をとっています。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、投資業務を行っておらず、本レポート記載の金融証券は一切保有していません。

責任制限

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートに基づき投資家が行った投資、売却、保有の決定に関して、いかなる責任も負わないものとします。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートの情報に起因する直接的、間接的、偶発的、特別、または結果的損害（予見可能か否かを問わず）に対して、一切の責任を負わないものとします。

Copyright 2026 Astris Advisory Japan K.K. All rights reserved.
全著作権所有無断転載禁止